

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：15201

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2012

課題番号：23730833

研究課題名（和文）日本美術の諸様式を言語化して理解させる鑑賞教育方法の実践的研究

研究課題名（英文）A practical research of art appreciation method to understand Japanese art through verbalization of the various styles of them

研究代表者

有田 洋子（ARITA YOKO）

島根大学・教育学部・講師

研究者番号：70598143

研究成果の概要（和文）：本研究は日本美術の諸様式を言語化して学ぶ鑑賞教育方法を考案して実践し、その方法の教育的有効性を実証した。まず仏像・絵画の諸様式をキャッチフレーズ化した。さらに美術史記述における感情語使用の増加傾向と、SD 法による仏像様式感情の分析から小学生から専門家まで似た感情を持つことを解明した。以上を基に、カルタやクイズ等の教材を作成し、小中学校の全学年で実践した結果、本鑑賞教育方法の有効性が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This research proves the effectiveness of the verbalization of styles of art works in art appreciation lessons by the practicing on Japanese fine arts. The researcher made the catch-phrases on styles of Buddhist sculptures and pictures, and pointed out the increasing use of the words of feeling in art history books. By the Semantic Differential Method investigation, it was shown that they—from a schoolchild to an arts specialist—have the similar feeling on seven styles of Buddhist sculpture. Based on the above, the researcher made such teaching materials as *Karuta* cards and quiz. And lessons which researcher designed with the teaching materials and implemented shows that the catch-phrases are effective both in understanding and pleasure for students of all grade in the elementary and junior high school.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：美術教育学 鑑賞教育 日本美術 様式 言語 キャッチフレーズ

1. 研究開始当初の背景

日本美術の鑑賞教育と言語活動を活かした美術教育は要請されているが、未だ十分に解明されていない。研究代表者は両者の研究を行ってきており、これまでの研究成果を発展統合する日本美術の諸様式を言語化して学ぶ鑑賞教育方法の着想に至った。この鑑賞教育方法の教育的有効性を実践を通して検証し、実践的方法論を踏まえたわかりやすい

鑑賞教育方法を学校現場に提案し貢献したいと考えた。

2. 研究の目的

日本美術の諸様式を言語化して学ぶ鑑賞教育方法を論理化・教材化して実践し、その教育的有効性を検証する。具体的には日本の仏像彫刻と絵画の代表作と様式を選定してキャッチフレーズ化した教材を協力校で実

践し、その教育的有効性を明らかにする。
 基礎的研究として、①美術作品の諸様式の言語化の教育的意義とその方法の解明、②日本の仏像彫刻と絵画の代表作の選定と諸様式の言語化、③美術史記述における感情語の使用実態の解明、④SD法による小学生から専門家までの日本美術の諸様式の感受実態の解明を行う。以上を踏まえて、⑤教材を作成し、小学校と中学校の全学年段階で授業実践を行い、本鑑賞教育方法の有効性を検証する。

3. 研究の方法

(1) 美術作品の諸様式の言語化の教育的意義とその方法について検討する。

(2) 日本美術の代表作と様式（時代・流派・個人・地域）の選定及び言語化を行う。
 ①飛鳥から明治時代までの日本の仏像彫刻と絵画の代表的様式の作品を選定し、様式内容を言語的に分析・記述する。そのために関連文献と博物館や寺院等で実地に調査する。
 ②前記内容及び言語論、擬態語擬音語辞書等関係文献を踏まえ、各様式の言語化を行う。具体的には様式キャッチフレーズを作成する。

(3) 戦後の大学用日本美術史テキスト等における様式記述上の感情語の頻出度を調べる。

(4) 日本美術の諸様式の感受実態を明らかにするため、小学生から専門家までを対象としたSD法による調査を行う。

(5) 教材作成を行う。

(6) 大学での試行的実践を行う。島根大学教育学部美術専攻学生対象に上記教材を用いた授業実践を行い、反応と感想を収集する。

(7) 協力校での本格的実践を行う。上記を踏まえた実践を、小学校及び中学校の全学年段階で行い、本鑑賞教育方法の教育的有効性を検証する。

4. 研究成果

(1) 美術作品の諸様式の言語化の教育的意義とその方法を以下のように明らかにした。
 ①教育的意義：様式は、ある時代や地域の作品群に共通する具体的な美的類型であり、作品群の全体を包括する本質的な概念である。そのような様式への直観が美術作品の了解感をもたらす。感覚印象である直観を言語化することで明確に把握しやすくすることをねらう。ただ様式は直観的に把握されるので、言葉で詳細に説明するほど理解しにくくなる。そこで、キャッチフレーズの登場となる。

表1 様式分析表及びその使用事例(飛鳥仏の場合)

	美術理論的解釈	美術史・文化史・歴史的解釈
作者	鞍作止利 止利仏師	止利の祖父 渡来入
内容 的側面	モチーフ: 最初は釈迦+脇侍が中心	日本に仏教が伝来して間もない頃 (←仏教のことはよくわかっていない時期) (←まだよくわからない異国の宗教) (←まずわかりやすい(仏教の創始者の像))
	①アルカイックスマイル ②正面性: 正面性を強調した抽象的で厳しい表現 ③対称性 ④「く」の字型の側面 ⑤人間離れたプロポーション	北魏の様式の影響 朝鮮経由で大陸の文化の移入 選択的に受容して単純明快にまとめ (←抽象性の強い作風へ)
形成 過程的側面	銅造 木造(楠)	大陸では仏教経典に示される材料の一つの香木を使用 (←日本自生の香りのある木:楠)
	銅造 木造(楠)	大陸では仏教経典に示される材料の一つの香木を使用 (←日本自生の香りのある木:楠)
表現主題	神秘性 厳しさ	

キャッチフレーズは短い文句で対象の印象的核心を切り取り、それを聞く人間に直観的に把握される。直観的に把握される様式は、キャッチフレーズにして示すことで理解しやすくなることを指摘した。

②様式の言語化の方法：様式の言語化は、感情と像の言葉の組合せで行うのが妥当であることを指摘した。さらにキャッチフレーズ化の言葉を得るための様式分析表を作成した(表1)。この表に沿って対象作品を分析すると、漠然とした印象が明確化され、最適な言葉も得られる。教師によるキャッチフレーズ作成だけでなく、児童生徒によるキャッチフレーズ作成にも用いることができる。

(2) 代表作と様式（時代・流派・個人・地域）の選定及び言語化を行った。様式区分には諸説あるが、仏像彫刻に関しては、本研究では最も一般的な、飛鳥、白鳳、天平、平安前期(密教仏)、平安後期(定朝様仏)、鎌倉(慶派仏)・江戸(円空仏)を選定した。室町以降は退潮著しく様式も定め難いので今回は取り上げない。ただ江戸時代の円空仏は特異な様式であり、時代バランスも考え取り上げた。過渡期様式や例外的様式の扱いは、今後の課題とする。絵画様式に関しては、飛鳥、白鳳、天平、平安前期、平安後期、鎌倉、室町の時代様式を選定した。江戸時代以降は、流派、個人様式に基づき選定した。

以上のように選定した様式をキャッチフレーズとして言語化した。まず仏像彫刻の様式キャッチフレーズを以下に記す。

○飛鳥仏：左右対称、平面性、アルカイックスマイル等から「厳格さ」「厳しさ」が感じられる。人間離れた外的形式に「神秘性」が漂う。さらに仏像が日本に入ってきて間もないので、異国的な「畏れ」や「神秘性」も感じられる。以上から、音声のリズムも考慮して「厳しく神秘的な 飛鳥仏」とした。

○白鳳仏：童顔童形に「かわいらしさ」「親しみ」が感じられる。表情からアルカイックスマイルが消え、顔付はやや間延びしている。体は左右非対称で肉付もよい。全体に丸みをおび、大きめの頭部、胴長、短足、膨らんだ腹部、いわゆる子ども体型である。金銅や香

木で作られ、持ち運びしやすい小サイズが多い。以上の特徴は感情の言葉「かわいい」に集約される。「かわいい」円空仏と区別するため「ふっくらかわいい 白鳳仏」とした。
○天平仏：白鳳仏よりリアルで人間らしい姿となった。体軀は豊かに張り出し、プロポーションにも理想的な美しさが感じられる。造像方法は塑造・乾漆造・銅造と多様になったが、リアル、豊か、堂々、美しさは共通している。豊かと堂々は「堂々」にまとめ、以前の仏像様式には無かった「リアル」と合わせて「堂々リアル 天平仏」とした。

○密教仏：厳しい修行をする密教は、仏像からも強い情念が感じられる。山林修行との関係から木彫仏が多い。翻波式衣文には厳しさがある。弾力ある柔らかさをもつ肉感的な表現には妖しさと官能性がある。それは天平期の理想的なリアルとは異なる。特に明王等多臂の像には、呪術的妖しさとこわさがあるので「妖しく・コワイ 密教仏」とした。

○定朝様仏：末法への恐れと浄土信仰が高まり、造仏が貴族の発願で流行する。定朝がそれを担った。救済の仏が、まるやかな体付、繊細に流れる衣の襞、夢見るような顔付で表される。優しさと穏やかさ、気品と優雅さがある。日本人好みが反映される。以上から、「繊細・優美な 定朝様仏」とした。

○慶派仏：武士の時代に相応しく、力強く写実的である仏である。天平様式への復古を背景にする。天平のリアルは理想的で気品が漂うのに対し慶派のそれは力強くダイナミックである。度を過ぎて俗な場合もある。以上から「リアル・ダイナミック 慶派」とした。

○円空仏：素材と造形方法と深い信仰心による主題とが見事に総合される。素材の木を活かして、大胆な彫り、その彫り跡もそのまま残される。力強さと優しさ、大胆さと素朴さから「大胆で素材を活かす 円空仏」とした。

絵画の場合も、仏像彫刻の場合と同様に、諸様式をキャッチフレーズとして言語化した。紙幅の都合上、作成したキャッチフレーズのみ以下に記す。なお江戸と明治は流派及び個人様式が多数なので省略する。

- 飛鳥：エキジチックで神秘的 飛鳥絵画。
- 白鳳：ふっくら・はつきり 白鳳絵画。
- 天平：やわらか・リアル 天平絵画。
- 平安前期：妖しく・コワイ 密教絵画。
- 平安後期：繊細・優美な 平安後期仏画。
- 鎌倉：クール・リアル 鎌倉絵画。
- 室町：幽玄・静寂 室町絵画。

(3)戦後の大学用の日本美術史テキスト、文部省『鑑賞資料彫刻編解説』の仏像様式記述における感情語の頻出度を調べた結果、感情語使用の増加傾向が判明した(表2)。平成3年発行『カラー版』日本美術史から急に頻出度が高まっていた。さらに各テキストが使

用する仏像様式の感情の言葉も調べた(表3)。その結果、感情の言葉の継続と変化が確認された。「優美な」等の様式に関わる語はもちろん、細かな形容の語にも継続が多く見られた。変化の一例として、白鳳仏は初期は「童顔・童形」等のみで、様式を示す感情の言葉が不明確であったが、次第に「若々しい」が用いられ、現在はそれに「かわいらしい」が加わり定着していることが見て取れた。

表2 仏像様式記述における感情語の頻出度

①文部省『図画工作科鑑賞資料鑑賞資料彫刻編解説』昭和25年
110語 1頁約500字 47頁 = 4.68pt.
②持丸一夫・久野健『日本美術史要説』吉川弘文館, 昭和29年
145語 1頁約500字 53頁 = 5.47pt.
③武者小路巖著 田中一松監修『日本美術史』美術出版社, 昭和36年
38語 1頁約700字 13頁 = 4.18pt.
④山根有三監修『日本美術史』美術出版社, 昭和52年
184語 1頁約700字 74頁 = 3.45pt.
⑤辻惟雄監修『カラー版』日本美術史』美術出版社, 平成3
130語 1頁約750字 13頁 = 13.33pt.

※1頁のおよその文字数と、仏像史記述の頁数を掛けた数で、仏像に関する感情の言葉の数を割った数値をおよその頻出度(pt.)とする。詳細は別稿に譲る。
※集計対象とした感情の言葉は、形容(動)詞・擬音語擬態語・「~のような」等の例示語である。それがどの程度様式に関わる感情の言葉かの詳細な検討は今後の課題とし、本研究では頻出度の概要を示すに止める。

表3 仏像諸様式を表す感情語のバリエーション

	①	②	③	④	⑤
飛鳥	神秘的な 不自然な 強い [救世観音像]	厳格な	かたく すこし不自然な	厳格な 抽象的な 扁平な 神秘的な	神秘的な 厳格な 厳しい
白鳳	清純な ふっくら [中宮寺弥勒菩薩] 理想的な [薬師三尊像]	*壮重な	*見る者の心をあたたかくするような	童児的な 円満な 若々しい	かわいらしい 清純な 若々しさ
天平	動的 [東大寺持国天] 写実的な [十大弟子像]	官能的な 生けるが如き すこぶる雄大な顔付	*静かな気品 *激しい動き *対照的な *ふしぎな	*リアルな *生けるが如き *豊かな	さまざまな 理想的な
密教	少しも怪奇さをとまなわず 麗しく気高い [観心寺如意輪観音]	奇怪にして難洗な 力強い	おもろい おもおもしろい	躍動性 量塊性 官能美	官能的な
定朝	—	やさしい 優雅な 穏和な 円満な	*おだやかな *こまかく	優しい 円満な 日本的な 優美な 繊細な 温和な おだやかな 静かな	繊細な 優美な 優しい 穏やかな 円満な
慶派	たくましい 現実的な 生な 動的な 激情的な [金剛力士像]	力強い 重厚な 地上的な美	内からあふれ出る力	写実的な 力強い	新しい 知的な

※上に挙げた感情語は、特定の仏像に対してではなく、その様式に対しての言葉、もしくは複数の仏像に対して頻出した語である。
※*は、様式に対する感情の言葉や複数の仏像に対して頻出した語がないので、特定の仏像に用いられた感情の言葉を示しておく。
※『鑑賞資料』は仏像一体を対象とした記述であったので、その一体に即した語を抜き出した。なお定朝様仏は抜かれていない。

(4)SD 法調査の結果、小学生から専門家まで仏像様式プロフィールは似た形となった(表4・図1・2)。今回の調査対象者は小学4年生、中学1年生、大学生、専門家(大学教員)であった。今後は、各段階の調査協力者数を増やし、小学校・中学校・高等学校・大学までの全学年段階及び専門家に対象範囲を拡大し、より詳細な様式把握の実態を解明することが課題である。

表4 SD法調査対象と方法

調査対象	島根大学教育学部附属小学校4年生 29人 茨城大学教育学部附属中学校1年生 157人 大学生(茨城大学31人、島根大学20人) 51人 美術専門家(大学教員) 8人
調査時期	平成24年7-8月
方法	質問紙による調査。 質問紙の構成:形容詞対24項目を「たいへん」「どちらかといえば」「どちらかといえば」「たいへん」で問う。 質問紙の形容詞対の配列は、美的質や肯定的・否定的形容詞の順がランダムになるようにした。 一様式につき5体の仏像図版を配した、カラー刷りA3版の用紙を見て、質問紙の項目に回答させる。この用紙は調査対象者1,2人に1枚渡すようにする。仏像1体ではなく仏像群で見ることを注意説明する。
回答方法	中学生は、研究代表者が直接調査紙を配付し項目を読み上げて回答を行った。小学生は、前半は中学生同様に行い、後半は担任教諭に依頼した。大学生と専門家は、一部は中学生同様、一部は配付し回収した。
※大学生:教育学部美術専攻生(1名は他専攻生)・全員日本美術史授業未修 ※質問紙回答時に参照するカラー刷り用紙には、以下の仏像図版を示した。 飛鳥仏:釈迦三尊、救世観音、百済観音、増長天、飛鳥大仏 白鳳仏:夢違観音、野中寺弥勒菩薩、九面観音、橘夫人念持仏、旧山田寺仏頭 天平仏:東大寺不空罽索観音・執金剛神・多聞天、阿修羅、須菩提 密教仏:親心寺如意輪観音、神護寺薬師如来、教王護国寺梵天、醍醐寺軍荼利明王、聖通寺千手観音 定朝様仏:平等院鳳凰堂阿弥陀如来・雲中供養菩薩、三院阿弥陀如来、法界寺阿弥陀如来、常照皇寺勢至菩薩 慶派仏:東大寺金剛力士、無著、制吒迦童子、龍燈鬼、興福寺金剛力士 円空仏:高賀神社十一面観音・善女竜王・善材童子、清瀧寺不動明王及び二童子、清瀧寺矜羯羅童子、太平観音堂十一面観音、阿弥陀寺聖観音	

(5) 作品札とその作品様式のキャッチフレーズによる読み札から成るカルタ教材(図3)や、模型、作品カード、プロジェクタ画像を利用する様式判別クイズ教材(図4)を作成した。

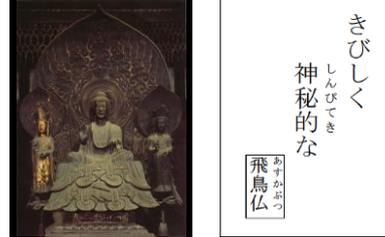


図3 カルタ教材(飛鳥仏の場合)



図4 クイズ教材(プロジェクタ画像)

(6) 上記のように分析・作成した仏像彫刻及び絵画の様式キャッチフレーズを用いて、大学で試行的実践を行った。その結果、大学生は、仏像彫刻及び絵画ともに各様式を約7割の正答率で判別できた。授業後のレポートやアンケートから全員が、様式の言語化による鑑賞授業方法は、わかりやすく楽しいと評価した(学生数8名×2授業)。

(7) 協力校で、白鳳、定朝様、慶派、円空の仏像彫刻4様式のキャッチフレーズによるクイズとカルタ教材を用いた本格的実践を行った。その結果、小中学校の全学年において、様式の理解と楽しさの両面でその教育的有効性を実証できた。

協力校での様式判別クイズの回答、アンケート、児童生徒の活動の様子を分析した。様式判別クイズで、小学1年生から中学3年生まで全学年段階のクラス平均正答率は約7割で(表7)、児童生徒は様式を感受理解できたことがうかがえた。児童生徒による授業アンケート(表8)、担任教師に聞き取った児童生徒の活動の様子からも授業方法は好評であった。特筆すべきは、小学生段階の鑑賞では難しいとされてきた様式つまり表現の質的内容の感受理解が、今回の実践で可能なことが実証されたことである。

また、様式判別クイズでは特定の様式・仏像が低正答率となった(表9・10)。誤答傾向や判別理由の聞き取りから、主たる誤答要因に、仏の種類やポーズといった外形形式による判断があったことがわかった。学年が上がるにつれてその傾向は強まり、外形形式と様

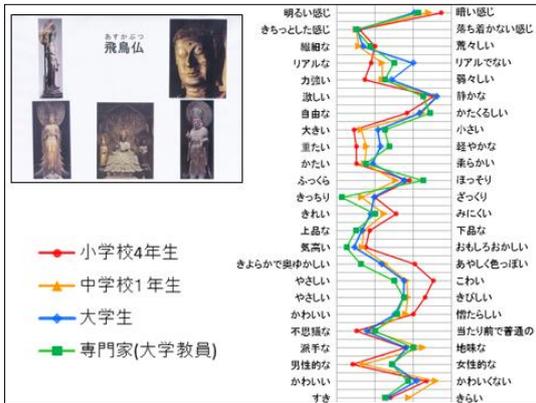


図1 仏像様式プロフィール(飛鳥仏の場合)

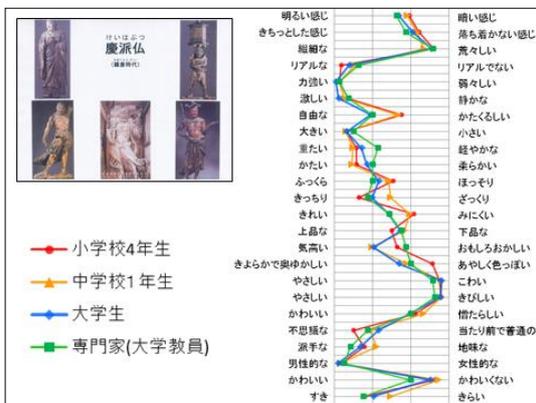


図2 仏像様式プロフィール(慶派仏の場合)

※飛鳥、白鳳、天平、平安前期(密教)、平安後期(定朝様)、慶派、円空の7様式について実施した。紙幅の都合上、飛鳥仏と慶派仏の例のみ示す。

式判断の総合化が今後の課題である。
実施時期と実践協力校は次の通りである。

[平成 23 年度]

3 月島根大学教育学部附属小学校
5 年生 1 クラス (26 人)

[平成 24 年度]

4-5 月つくば市立豊里中学校
2 年生 1 クラス (35 人)
3 年生 3 クラス (31 人・32 人・33 人)

6 月島根大学教育学部附属小学校
4 年生 2 クラス (31 人・29 人)
5 年生 2 クラス (29 人・29 人)
6 年生 2 クラス (24 人・23 人)

6 月島根大学教育学部附属中学校
2 年生 3 クラス (32 人・32 人・33 人)

7 月茨城大学教育学部附属中学校
1 年生 4 クラス (39 人・39 人・39 人・37 人)

7 月茨城大学教育学部附属小学校
1 年生 1 クラス (31 人)
2 年生 1 クラス (38 人)
3 年生 1 クラス (37 人)

10 月奥出雲町立八川小学校
1・2 年生複式 1 クラス (17 人)

10 月浜田市立上府小学校
5 年生 1 クラス (10 人)

豊里中学校の実践の一部は同校美術科教諭に依頼し、それ以外は該当校担任教諭の立会いの下、研究代表者が授業者として実践した。

なお上記の研究代表者作成のキャッチフレーズを用いて様式を判断する授業実践の他、発展教材として児童生徒が様式キャッチフレーズを作成する授業も実践した(平成 24 年 5-7 月)。詳細な検討は今後の課題とする。

表 5 実践クラス数及び人数

学年	①研究代表者作成のキャッチフレーズ使用授業		②児童生徒によるキャッチフレーズ作成授業	
	小学校	1	2クラス (39人)	
	2	1クラス (47人)		
	3	1クラス (37人)		
	4	2クラス (60人)		
	5	4クラス (94人)		
	6	2クラス (47人)	1クラス (27人)	
中学校	1	4クラス (154人)	4クラス (154人)	
	2	5クラス (168人)		
校	3	4クラス (132人)	1クラス (29人)	

表 6 クイズに用いた仏像(出題順)

1 円空 善財童子像 高賀神社
2 運慶 吒吒迦童子像 金剛峯寺
3 阿弥陀如来坐像 法界寺
4 観音菩薩像(伝金堂薬師如来脇侍) 法隆寺
5 阿弥陀三尊来迎像のうち勢至菩薩 常照皇寺
6 運慶 毘沙門天像 願成就院
7 円空 十一面観音菩薩像 大平観音堂
8 虚空蔵菩薩像 法輪寺
9 阿弥陀如来坐像 法金剛院
10 夢違観音像 法隆寺
11 龍燈鬼像 興福寺
12 文殊菩薩像 法隆寺
13 円空 不動明王像 清龍寺
14 雲中供養菩薩像 平等院
15 日光菩薩像 法金剛院
16 金剛力士像 興福寺
17 運慶 無著像 興福寺
18 円空 聖観音菩薩像 阿弥陀寺
19 円空 月光菩薩像 薬王寺
20 橋夫人念持仏 法輪寺
21 阿弥陀如来坐像 安楽寿院
22 二十五菩薩坐像のうち観音菩薩 即成院
23 観音菩薩像(法隆寺献納宝物第165号)
24 円空 十二神将像(うち六体) 薬王寺
25 運慶 矜羯羅童子像 金剛峯寺

表 7 クイズのクラス平均正答率

学年	組	人数	正答率 (%)	学年	組	人数	正答率 (%)	学年	組	人数	正答率 (%)	
												小学校
	2	A	9	73		B	39	77		B	8	64
	3	A	37	66		C	39	81		C	8	92
	4	B	29	70 [64 ^{平均}]		D	37	74		D	7	77
		平均		73		平均		77		平均		83
		A	26	71		A	35	82		A	7	83
		B	29	77 [67 ^{平均}]		B	35	74		B	7	90
		C	29	73		C	32	74		C	7	75
		D	10	70		D	32	79		D	7	76
		平均		73		平均		85		平均		76
		A	24	70		平均		79		平均		78
		B	23	78 [70 ^{平均}]		A	36	80		A	7	83
		平均		74		B	31	65		B	7	72
						C	32	72		C	7	83
						平均		78		平均		78

頭文字をもって各学校名を示す。(例:島根大学教育学部附属小学校。豊:豊里中学校。)
クイズの問数は、協力校及び児童生徒の実態に応じて減らしたものもある。詳細は表 8 を参照。
※1 発達段階を考慮し、問の並びを変えた。なお茨城大学教育学部附属小学校1・2年生の結果は授業中児童が回答結果を書き直す姿が見られたため、ここには示さないこととする。
※2 中3-回は、1-9問までの回答は口頭でなされ、10-24問までの回答はワークシートに記述された。回答率は記述の明らかな後者で算出した。
※3 島大の1回目は、試行の実験のため、問数と問の並びが異なる(問数:1年生14問・2年生40問)。2回目以降は小中実施例と同じ問である。
※4 クラスの状況や時間の関係で授業中に17問まで行い18-25問はプリント学習とした。[]内の数値はプリントの回答率である。

表 8 仏像ごとの正答率

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
小学校	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
中学校	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 9 児童生徒による授業アンケートの記述の分類(グラフ内数値:人数)

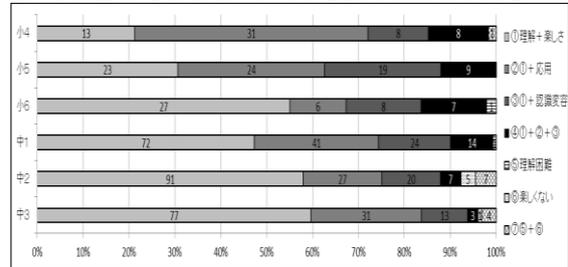


表 10 低正答率の仏像

クイズ出題順	17	20	12	15	14	25	8	22	5	10	23													
小学校	小3-A(茨) 29%	小4-A(島) 68%	小4-B(島) 17%	小5-A(島) 42%	小5-B(島) 21%	小5-C(島) 24%	小6-A(島) 42%	小6-B(島) 35%	中1-A(茨) 31%	中1-B(茨) 32%	中1-C(茨) 45%	中1-D(茨) 11%	中2-A(茨) 52%	中2-B(豊) 85%	中2-C(島) 39%	中2-E(島) 37%	中2-F(島) 38%	中3-A(茨) 43%	中3-B(豊) 42%	中3-C(豊) 52%	中3-D(豊) 29%	平均正答率 小一-大 37%		
中学校	13%	45%	27%	4%	21%	7%	25%	4%	28%	69%	61%	47%	58%	91%	33%	41%	56%	44%	8%	42%	58%	19%	39%	
小学校	46%	33%	41%	58%	59%	31%	83%	61%	21%	50%	24%	69%	67%	73%	58%	40%	63%	50%	27%	55%	72%	44%	43%	
中学校	25%	68%	69%	31%	55%	69%	71%	57%	37%	50%	82%	44%	73%	73%	33%	53%	72%	71%	36%	55%	59%	94%	59%	
小学校	50%	65%	62%	35%	24%	62%	48%	63%	61%	44%	71%	50%	58%	61%	64%	60%	91%	88%	61%	75%	81%	69%	60%	
中学校	67%	77%	76%	65%	72%	72%	74%	84%	81%	67%	89%	66%	82%	84%	76%	74%	91%	91%	77%	81%	90%	75%	78%	
小学校	94%	69%	69%	73%	83%	93%	71%	83%	74%	83%	83%	83%	75%	75%	73%	70%	91%	91%	72%	73%	94%	88%	65%	
中学校	74%	81%	87%	72%	72%	72%	72%	84%	81%	75%	86%	82%	82%	82%	82%	82%	91%	91%	77%	73%	90%	75%	78%	
小学校	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%
中学校	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%

表10-11に關して、八川小学校1・2年生と上府小学校5年生の実践では児童数及び問数が少ないのでここでは省略する。

表 11 誤答の内訳

											
	17	20	12	15	14	25	8	22	5	10	23
小4	白 10%	13%	40%	48%	7%	47%	67%	29%	7%	75%	97%
平	定 30%	67%	48%	38%	67%	7%	25%	65%	75%	5%	3%
均	慶 11%	20%	3%	13%	22%	43%	2%	6%	12%	9%	0%
小5	白 50%	0%	9%	2%	5%	3%	7%	0%	7%	12%	0%
平	定 7%	25%	24%	43%	13%	71%	41%	14%	8%	84%	82%
均	慶 54%	68%	61%	44%	52%	8%	53%	79%	70%	5%	11%
小6	白 25%	7%	1%	10%	34%	21%	1%	7%	21%	3%	0%
平	定 14%	0%	14%	3%	1%	0%	4%	0%	1%	7%	7%
均	慶 0%	25%	31%	26%	2%	29%	47%	1%	15%	77%	76%
小1	白 63%	71%	56%	43%	72%	4%	49%	30%	58%	4%	13%
平	定 32%	4%	9%	32%	15%	67%	3%	67%	23%	13%	3%
均	慶 0%	0%	5%	0%	11%	0%	2%	1%	5%	7%	8%
小2	白 11%	51%	36%	49%	14%	46%	55%	17%	12%	80%	79%
平	定 47%	48%	55%	42%	41%	3%	43%	66%	71%	4%	4%
均	慶 29%	1%	3%	6%	34%	52%	1%	15%	14%	8%	3%
小3	白 13%	0%	5%	3%	1%	0%	1%	2%	3%	8%	15%
平	定 21%	40%	47%	28%	17%	31%	69%	20%	9%	77%	72%
均	慶 23%	53%	42%	55%	53%	5%	24%	56%	74%	4%	12%
小4	白 39%	4%	2%	13%	22%	61%	1%	16%	15%	10%	4%
平	定 15%	3%	7%	4%	7%	3%	6%	8%	2%	10%	11%
均	慶 15%	37%	50%	30%	7%	0%	63%	15%	7%	84%	82%
小5	白 34%	57%	38%	54%	59%	27%	25%	66%	82%	5%	3%
平	定 39%	4%	6%	12%	19%	72%	4%	12%	5%	4%	2%
均	慶 11%	2%	6%	5%	15%	0%	7%	7%	5%	7%	14%
小6	白 12%	43%	37%	31%	12%	0%	75%	19%	0%	73%	88%
平	定 56%	56%	63%	68%	44%	0%	25%	69%	94%	27%	6%
均	慶 19%	0%	0%	0%	38%	100%	0%	12%	6%	0%	0%
小7	白 12%	0%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	6%
平	定 11%	33%	38%	36%	10%	32%	60%	16%	8%	78%	82%
均	慶 44%	60%	52%	49%	55%	8%	35%	62%	75%	8%	7%
小8	白 28%	6%	4%	12%	26%	59%	2%	19%	14%	7%	2%
平	定 16%	1%	7%	2%	6%	1%	4%	3%	3%	7%	9%
均	慶										

(8) 奥出雲町立八川小学校の校内研修会（平成 24 年 10 月）でこの鑑賞教育方法を講演し、小学校教員の賛同を得た。

（挿図出典）

西村公朝・小川光三『仏像の見分け方』新潮社、1987。『原色日本の美術』第6巻、小学館、1990。辻惟雄監修『【カラー版】日本美術史』美術出版社、1991。辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版、2005。東京国立博物館・読売新聞東京本社文化事業部『仏像 一本にこめられた祈り』読売新聞社、2006。『週刊 日本の仏像』第1巻第14-20号、講談社、2007。『週刊 古寺を巡る 1』通1号、小学館、2007。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

- (1) 有田洋子、日本美術の諸様式を言語化して理解させる鑑賞教育方法—キャッチフレーズによる仏像様式の鑑賞—、美術科教育学会学会誌美術教育学、査読有、34号、2013年、33—47頁。

〔学会発表〕（計2件）

- ① 有田洋子、美術作品の様式を言語化して感受理解させる鑑賞教育—SD法による仏像感情の調査を中心に—、第35回美術科教育学会島根大会、2013年3月29日、島根大学（松江）。
- ② 有田洋子、日本美術の諸様式を言語化して理解させる鑑賞教育方法—諸様式をキャッチフレーズ化する視点—、第34回美術科教育学会新潟大会、2012年3月27日、新潟大学（新潟）。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有田 洋子 (ARITA YOKO)
島根大学・教育学部・講師
研究者番号：70598143

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし